



# 諏訪湖通信95号

令和8年5月20日号 発行: 諏訪湖創生ビジョン推進会議



## 諏訪湖創生ビジョン推進会議を開催します

諏訪湖の水質・生態系保全やまちづくりなど、構成員による令和7年度活動実績、令和8年度活動計画の情報共有等を行うため、以下のとおり第14回諏訪湖創生ビジョン推進会議を開催します。

- 日時 令和8年5月28日(木) 14時から
- 場所 長野県諏訪合同庁舎 講堂



< 昨年の創生ビジョン推進会議の様子 >

## 諏訪湖創生ビジョンでは どのような活動を行っているの？

諏訪湖創生ビジョンは、7つのワーキンググループ(以下WG)があります。また、WG以外にも各構成員が各々の目的に基づき活動を実施しています。各WGの活動は、以下のとおりです。

○ 諏訪湖の水草対策WG・・・主にヒシの大量繁茂対策として水草刈取船の他、手作業によるヒシの刈取りやヒシ除去の新たな仕組みづくりに関する活動をしています。

○ ごみの無い諏訪湖WG・・・「諏訪湖まるまるゴミ調査」等によるプラスチック由来のごみ対策をはじめ、湖辺面の美しい景観づくりを推進する活動をしています。

○ メガネサナエ保全WG・・・諏訪湖の生態系改善の指標種であるメガネサナエの保全活動を通じ、諏訪湖における生物多様性に配慮した生態系保全に繋げる活動をしています。

○ 諏訪湖における持続可能な漁業振興WG・・・ワカサギ採卵技術の開発、手長エビの資源調査、魚食性鳥類や外来魚対策等の活動をしています。

○ 諏訪湖の浚渫課題WG・・・利水、生態系保全を目的とした効果的な浚渫について、試行的な浚渫の施工箇所や方法等について検討、実施しています。

○ 諏訪湖周自転車活用推進協議会WG・・・諏訪湖周のサイクリングロードや休憩施設などの環境整備等、湖辺面の有効的な利活用を推進する活動をしています。

○ 諏訪湖の水辺アクティビティ推進WG・・・水辺のアクティビティを推進することで「泳ぎたくなる諏訪湖」の実現に向けた取り組みを推進する活動をしています。

会議の開始前に、諏訪湖創生ビジョン推進会議の事業支援のため、ご寄附をいただいた㈱ウォーターエージェンシー様への感謝状贈呈式を行います。ご参加いただける方は、当日の13時40分までに会場へお越し下さい。

## 水辺整備⑦ Fゾーン(下諏訪町) 湖畔に浮かぶ自然と共生する湖

自然環境との共生をテーマとした新たな諏訪湖の商業・観光・レクリエーション拠点を形成する。

諏訪湖の自然河岸の保全により、水生動植物と共生できる水辺を復元し、「シジミの採れる諏訪湖」を目指す。



### 【整備(利活用)の方針】

- ・砥川や横河川には今でも良質な砂の供給があり、この良好な自然河岸を保全していく。
- ・自然に形成されている砂浜を利用して「シジミの採れる砂浜」をめざす。
- ・生態系に配慮した上で、治水や利水に配慮した浚渫を計画的に実施。

### 【水辺整備の課題】

- ・河川が供給する砂により砂浜が形成されており、シジミの砂浜と同時に渡り鳥(シギやチドリなど)の飛来地となっている。
- ・この辺りは魚類の種類数が多く、多様性が大きい。ワカサギの遡上がみられる。
- ・クロモヤエビモ等の沈水植物が多く繁茂している。



砥川河口右岸に広がる砂浜に流れ着いた竜に似た流木



砥川の砂州が広がりハケ岳が望める良好な景観が保存されています

## 自然豊かな砥川河口の砂浜には 渡り鳥が訪れます

文責: 日本野鳥の会諏訪支部

### ○ 砥川の河口に生成された砂州には渡り鳥がやってきます

諏訪湖の砥川河口に形成された砂洲は渡り鳥にとっては絶好の休憩所。オオソリハシシギが、砥川にできた洲に降り立ったのは2022年10月11日。ここで10月17日までの一週間、羽を休めて再び飛び立っていきました。繁殖地のアラスカから赤道を超えオーストラリアやニュージーランドへの1万キロ以上の長旅をします。日本海沿岸から本州を横断して太平洋側に抜けていく渡り鳥にとって諏訪湖の環境は適しているようです。ここに砂洲が形成されてからの短期間で県内初確認、もしくは国内でも数えるほどしかない鳥類が複数飛来していることから証明されています。



オオソリハシシギ



・6月～8月は北半球のアラスカで繁殖し、10月～2月は南半球のオーストラリア周辺で過ごしているようです。



・砥川は比較的勾配があり、多くの土砂を諏訪湖に運んでいます。  
・河口には砂州が広がり、諏訪湖の流れにより右側に寄っています。

諏訪湖創生ビジョン推進会議は「人と生き物が共存し、誰もが訪れたい諏訪湖」の実現に向けて取り組んでいます。  
事務局: 諏訪地域振興局企画振興課 TEL: 0266-57-2901